

ねん がつよつか
2024年2月4日

ねんかんだい しゅじつ
年間第5主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

マルコ福音は、カファルナウムで福音を告げるイエスの姿を描いています。「悪霊にも
の言うことをお許しにならなかった」イエスは、権威のある言葉を語り、人々が驚く
ような業を行います。弟子となったシモンのしゅうとめの熱をさらせたことを皮切りに、
多くの病人や悪霊に取り憑かれた人が癒やしを求めてイエスのもとに集まってきた様
子が描かれています。

もちろん病気の癒やしという出来事自体は奇跡であり、驚くべき出来事ですが、それ
以上に、人生の中で困難を抱え、絶望に打ちひしがれている人たちが、イエスのもとで安
らぎを得、生きる希望を見いだしたことにこそ、重要な意味があると思います。権威あ
るイエスの姿は、同時に愛といつくしみに満ちあふれた姿でもありました。

押し寄せてくる人生における困難を抱えた人たちの目の当たりにしたとき、イエスはそ
れを放置することはできなかつた。いのちをより良く生きることを阻んでいる悪によつ
てとらわれの身にある人たちを、その束縛から解放されました。

パウロはコリントの教会への手紙に、「弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱
い人を得るためです」と記し、「福音のためなら、わたしはどんなことでもします」と宣言
しています。

パウロの宣教への姿勢は、イエスと全く同じように、上からの目線で教え導いてやろ
うという態度ではなく、困難を抱え希望を失っている人たちと同じ地平に立ち、全力
を尽くして神の救いの希望に与ることが出来るようにと、束縛から解放しようとする、手
を差し伸べる姿勢です。

だからこそイエスもパウロも、一つのところに留まって褒め称えられるのではなく、ひ
とりでも多くの人に生きる希望を生み出すために、全力を尽くして出向いて行かれます。

きょうこう フランシスコが、きょうかい 教会は「出向いていく 教会であれ」と呼びかけるゆえんです。
そのイエスの すがた 姿に倣って、わたしたちも 神の愛と つかしみを伝え、希望を生み出し続
けるものでありたいと思います。

がついつ かげつようび 2月5日月曜日は、にほん せいじゆんぎょうしゃ 殉教者の記念日に当たります。自分の 十字架を背負っ
てついてきなさいと 呼びかけられたイエスに 忠実に生きることによって、主ご自身の受
なん し 難と死という しがな わざ 業に 与り、それを通じていのちの福音を身をもってあかしされた
せいひと 聖人たちです。

せい みき 聖パウロ三木をはじめ 26人のキリスト者は、1597年2月5日、ながさき にしざか 西坂で主イエスの死
と復活を証ししながら 殉教して行かれました。イエスの福音にこそ、すべてを賭して生
ぬ かし きて 価値があることを、おおぜい がんぜん 大勢の眼前であかしされた方々です。すべてを投げ打ってさ
えも 守らなくてはならない 価値が、いのちの福音にあることをあかしされた方々です。

わたしたちはその、すべてを賭してさえも 守り抜かなくてはいけない福音に生きるよう
にと、せい じゆんぎょうしゃ 聖なる 殉教者たちによって招かれています。全力を尽くして、ぜつぼう のうちにあ
る人たちの元に 駆け寄り、こんなん を生み出す悪の束縛から 解き放ち、喜びと希望を生み出
すために、出向いていく 教会でありたいと思います。